



共生社会デザインに 向けた取り組みについて

株式会社アソシエイト・ファームの
進める農福連携



プロフィール

代表取締役

石村 晃一

Kouichi Ishimura

日本農福連携協会正会員

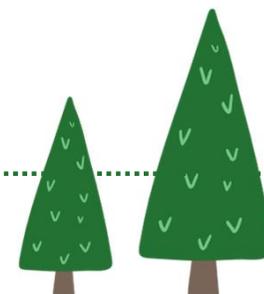
農福応援等コンソーシアム賛助会員

農福連携技術支援者（農水産省認定）

- ・ 農福連携コーディネーター
- ・ 農福連携アドバイザー



目次



01 アソシエイトファームの事業内容

02 農業生産の内訳

03 東広島市と連携した取り組み

04 広島版地域コンソーシアム構想

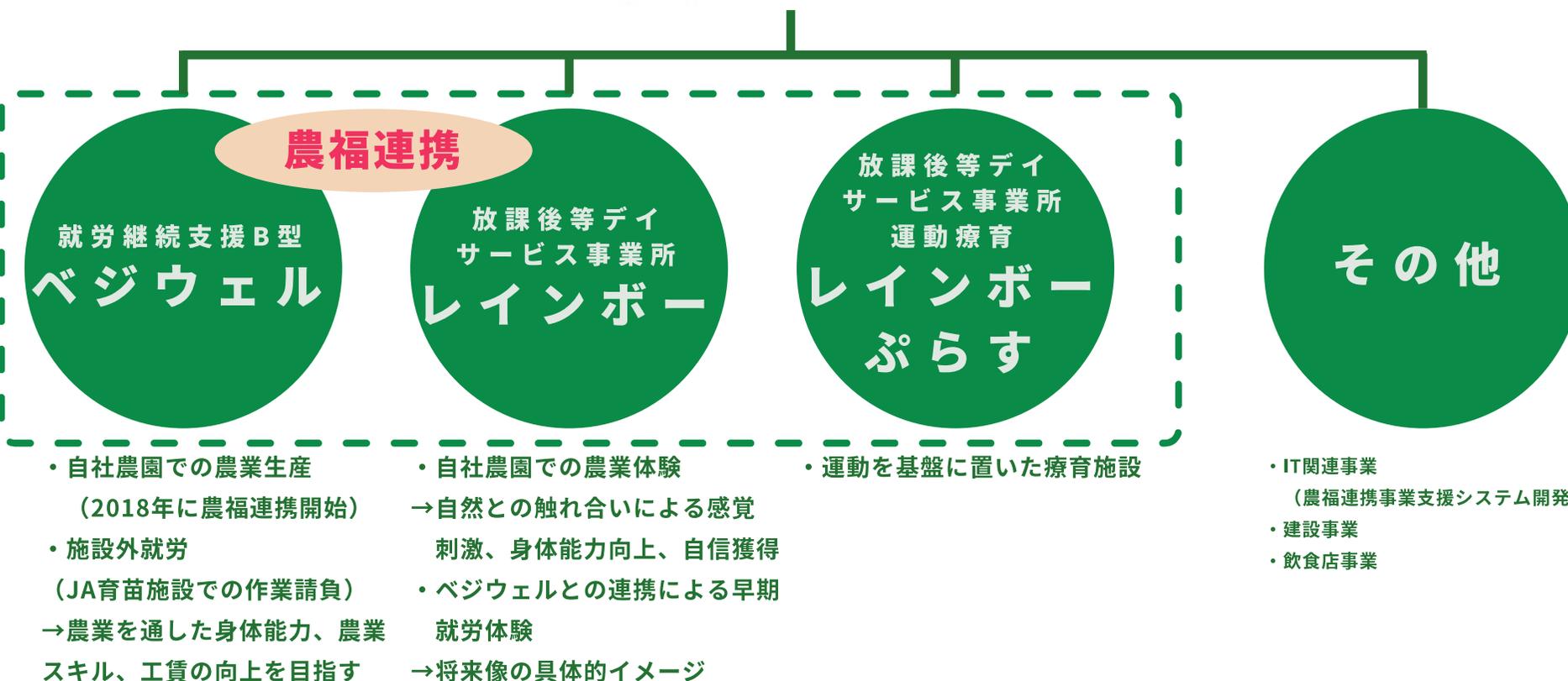
05 アソシエイトファームの目指すネクステージ
共生社会の実現

Table of Contents

株式会社アソシエイト・ファームの事業内容



福祉事業



その他

- ・IT関連事業（農福連携事業支援システム開発）
- ・建設事業
- ・飲食店事業

02

農業生産の内訳

01

東広島市黒瀬町
黒瀬圃場



- ・事業所に隣接
→農業演習機能が中心
(出荷前調整作業も含む)
=少量多品目(季節を問わず
作業がある状態に)
- ・圃場面積：
0.5ha+0.1ha=0.6ha
- ・栽培作物：年間約30品目



02

東広島市八本松町
吉川圃場



- ・施設外就労先の農事組合法
人から経営困難な圃場の引き
受けを打診され、栽培開始
- ・圃場面積：0.5ha
- ・栽培作物：アスパラガス
(4~10月)



03

東広島市河内町
戸野圃場



- ・住民が減り高齢化した集落
の圃場を一括引き受け。将来
の観光農園化を視野に入れ、
圃場整備中
- ・圃場面積：1.1ha
- ・栽培作物：野菜6品目、
花き数種類

東広島市と連携した取り組み

2020年

東広島市にて農福
連携推進の取組
みスタート

2022年6月～

農福連携関連事業
者が出店する「ノ
ウフクマルシェ」
開催（月1回）

障害福祉課に農福
連携推進員を設置
→農業者と福祉事
業者のマッチング
支援（県内唯一）

東広島市が「農福
連携等応援コンソ
ーシアム」に賛助
会員として参加
全国5自治体の1つ

2022年12月

東広島市にて「ノウフク・ラボ」開催。
アソシエイトファームの圃場で**移動式多目的
トイレ**（トヨタ製）を見学。意見を交換し、
導入可能性を探る。

トイレ導入の壁
維持費をどう捻出
するか？

収益化の検討

- イベント時の福祉需要・特別支援学級の課外活動等への貸し出し
- 管理・清掃・利用案内などの就労機会確保
- 普段は圃場で使用

導入
可能性の
具体化

01

地域格差

農業＝地域による差異大

気候・圃場の広さ等の影響

→地域コンソーシアムの必要性

→東広島市単独での立上困難

02

三市連携

東広島・三原・竹原

三市の事業者連携（全国初）で、

生産・加工・販売の一貫体制を確保

→課題：複数地域にまたがる地域
コンソーシアムへの枠組みがない

03

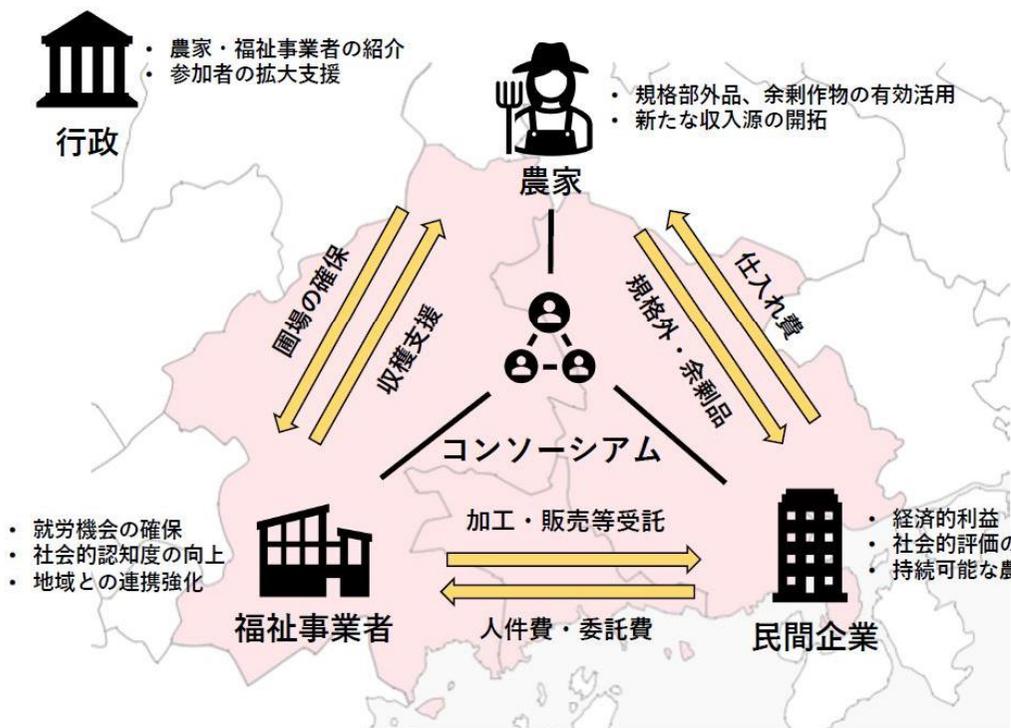
社団法人立上

休眠預金等活用助成金農福連携マッチング・農業ノウハ
ウの指導・六次化などの収益事業
を組み込む→3年後の助成金終了後
は自走可能な組織へ

05

ノウフクコンソーシアムひろしま

農家の人材不足や食品ロスを農福連携により解決し、収穫した作物を民間企業と連携し収益性の向上を図るコミュニティを構成する。活力ある地域づくり等に対して助成を行い、地域のコミュニティ活動の充実・強化を図ることにより、地域社会の健全な発展と住民福祉の向上に寄与する。



コミュニティの目的

対象地域の活性化

- ・子ども、女性、高齢者、障がい者などが共に支え、共に生活できるまち作り（地域共生社会）
- ・就労支援やマッチングによる働く場を作る

農福製品の普及・啓発

- ・農福連携による新商品の開発、販路開拓

地域交流や農業研修の促進

- ・収穫体験や販売会、収穫祭などによる交流の場
- ・共生社会に向けた勉強会
- ・農業研修による人材育成

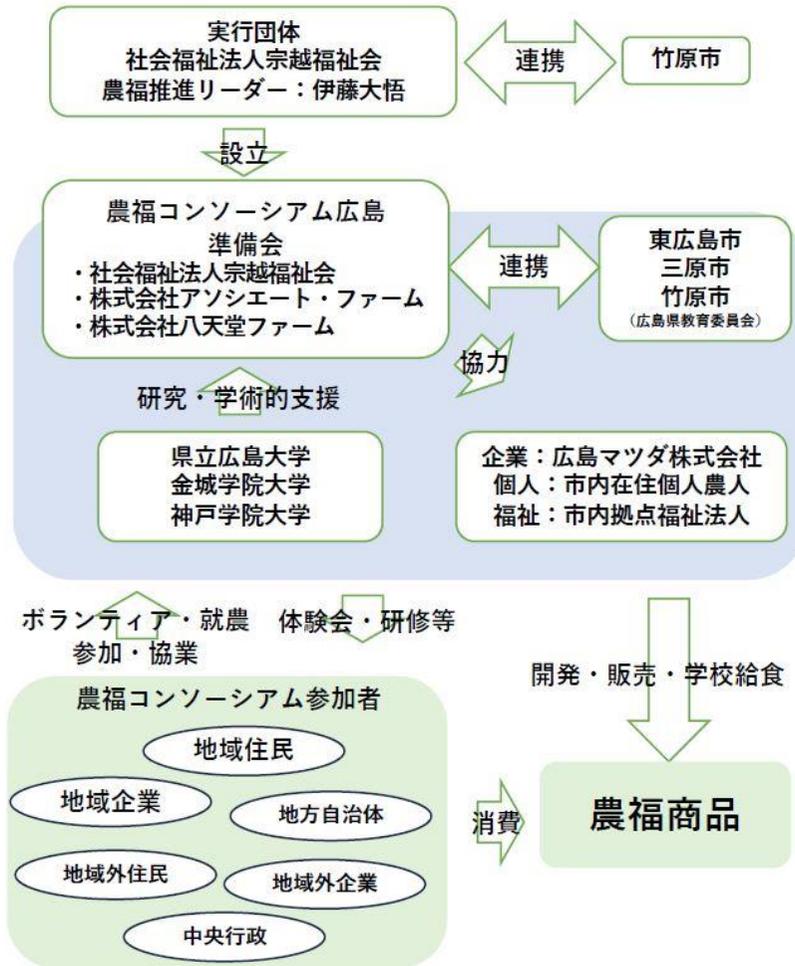
地域産品や事業活動の情報発信

- ・コンソーシアム参加者の情報集約、発信
- ・収穫状況やイベントの告知

ひろしま
ノウフク



ノウフクコンソーシアムひろしま



《3年後(2027年2月)に目指す姿》

2027年2月に目指す姿

- ・活動する3市（東広島市・三原市・竹原市）から4市1町へ（尾道市・世羅町）へ活動拡大
- ・農福連携事業者を3事業所から15事業所へ拡大
- ・農福連携の6次化
広島県の販路から中国地方・全国への販路拡大
- ・働きやすい農福連携の環境整備
- ・地域共生ネットワークの構築
- ・情報発信プラットフォームの構築 月間10,000PV

全体統括管理

（社福）宗越福祉会 理事 伊藤大悟

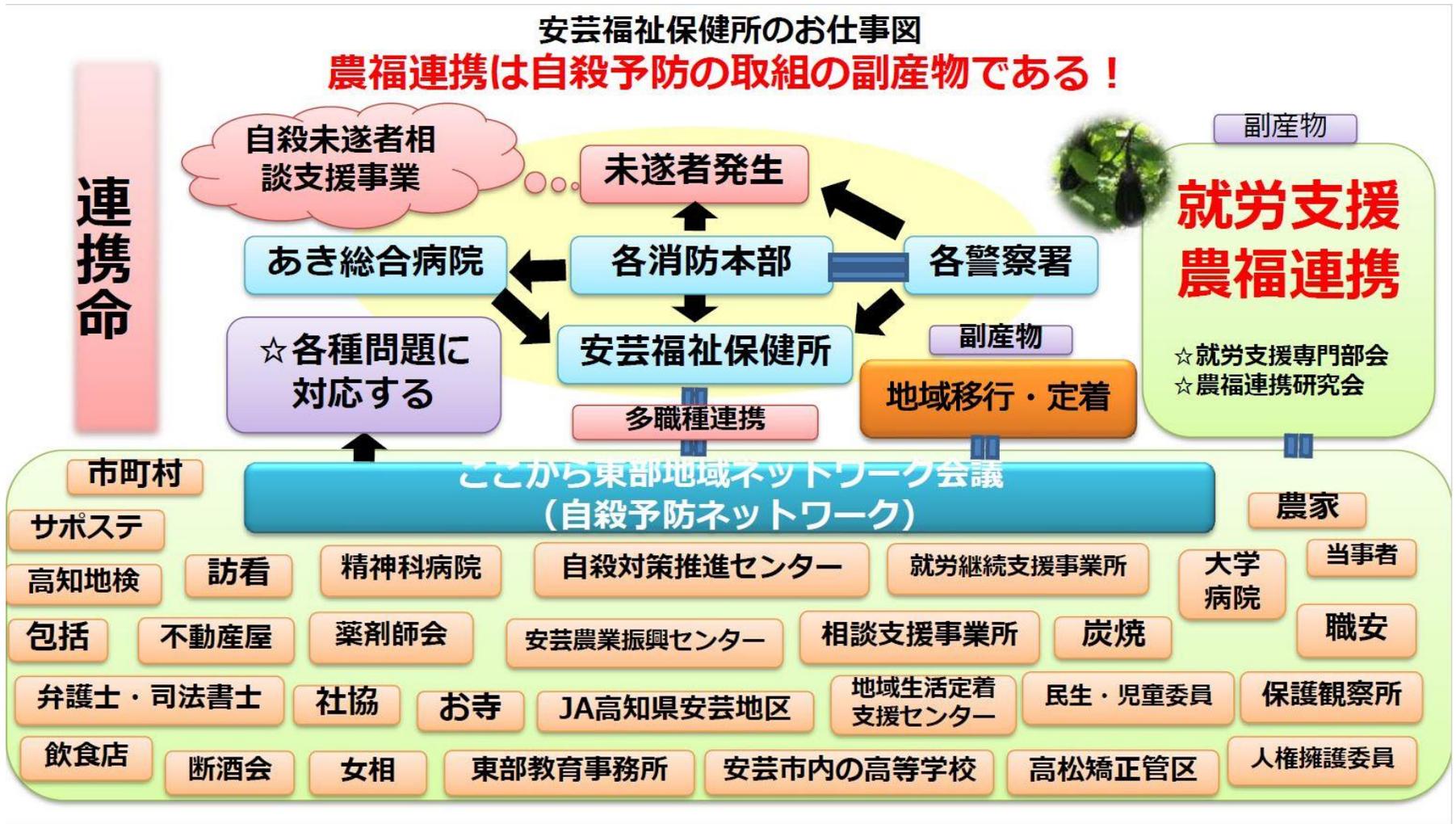
就農支援

（株）アソシエイト・ファーム 代表取締役 石村 晃一

販路拡大

（株）八天堂ファーム 代表取締役 林 義之

コンソーシアムに求められるネットワークのデザイン



アソシエイトファームの目指す次のステージ 共生社会の実現



農業の持つ産業特性

- 太陽・土・自然に触れる
→ リハビリ要素
- 目に見える成果「収穫」が得られる
- 担い手不足が課題になっている

● 生活困窮者

● ひきこもり

(東広島市地域共生課)

● 触法者(犯罪、非行)

(法務省保護局、矯正局)

刑務所、少年院、少女院

● 高齢者

農福連携の
広がる
可能性

現状

障害者福祉
中心
就労継続支援
施設

将来像

より多様な
視点の福祉を
対象に

就労・社会参画支援
触法者の立ち直り支援
地域コミュニティとの結びつき
やりがい

選ばれる生産物へ



- 「買ってあげる」という消費者意識
- 「働かせてあげる」という農業者視点
- 「安い労働力」という経営者視点

いずれもバツ！！

- 他の農産物と肩を並べる品質
- 工賃に見合う貢献

福祉を産業に組み込む社会をデザイン
お互いが社会を支える存在に

農福連携 = 税金を根拠にしない 福祉のあり方



- 農福連携の意義を発信（コンソーシアム）
→「同じ品質、同じ値段ならこちらを」という消費者意識改革
- ノウフクJASの取得（アソシエイトファーム）
- 農業スキル取得による就農支援も視野に

共生社会の実現